

鹿児島の昆虫38 (速報) 隼人：神造島の調査

昆虫担当 金井 賢一

2012年8月12日、博物館フィールドワーカー養成講座の昆虫班は、隼人の沖に浮かぶ3つの無人島：神造島の調査に行きました。今回はまん中の一番低い島、弁天島に瀬渡し船で渡りましたが、着いた10時30分頃は干潮だったので、手前の辺田小島にも渡ることができました。



左から沖小島、弁天島、辺田小島

今回の調査の目的は、海浜性の昆虫調査です。特にシロヘリハンミョウのような海浜性ハンミョウと、イソアシナガアリのような海浜性のアリの対象としました。海岸を生活の場としている昆虫は、近年の防波堤工事などで生活しにくくなっており、全国的にも減少が問題になっています。鹿児島湾もほぼ防波堤で囲まれており、海岸の昆虫は減少しています。神造島の周囲は工事されておらず、昔

の鹿児島湾の姿が残っているのではないかと、という期待でいっぱいでした。

しかし、残念ながら海浜性ハンミョウは見られませんでした。アリの仕掛けたトラップにあまり集まりま



せませんでした。弁天島から辺田小島を見るので、季節を変えて調査をもう一度行い、防波堤のある海岸と比較したいと考えています。

またセミはクマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシがたくさん鳴いていましたが、ヒグラシ、ミンミンゼミは聞こえませんでした。



アリの調査風景

今回の調査結果は、今後鹿児島昆虫同好会の会誌 SATSUMA などに発表する予定です。

鹿児島の植物44 高隈山の植物(その1)

「高隈山」は、垂水市と鹿屋市にまたがる山々を総称した呼び方です。大隅半島最高峰の大籠柄岳や横岳、御岳など1000m級の山々が連なります。御岳に登る機会があったので、そこで見られた植物を紹介します。

タカクマホトトギス ユリ科 花期9月頃

ホトトギスの名前の由来は、花びらにつく点^{はんもん}が、鳥のホトトギスの胸や腹、尾につく点(斑紋)に似ていることによります。ホトトギス

は、白い花びらに紫色の斑点がつきませんが、このタカクマホトトギスは、黄色の花を咲かせるホトトギスです。大隅半



タカクマホトトギス

島に固有の種で、林縁の湿った崖や登山道沿いに生えます。御岳では、登山口周辺から見るすることができます。

植物担当 大屋 哲
ナガバシュロソウ ユリ科 花期9月頃

林縁に生える植物で、古い葉の形や色がヤシ科の「シュロ」に似ているためこの名前がつきました。御岳では、登山道沿いに生え、濃い紫色の花を咲かせていました。



ナガバシュロソウ

ヒヨドリバナ キク科
花期9月頃

林縁に生える植物で、ヒヨドリが里に下りてくる頃に咲くので、この名前がついたと言われます。御岳では、登山口周辺から山頂にかけての登山道沿いに見られました。



ヒヨドリバナ